

## 石神井図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和7年10月30日（木） 午後2時～3時30分
- 2 場所 石神井図書館 2階 会議室
- 3 出席者 利用者22名  
図書館 5名（石神井図書館館長、館長代理4名）
- 4 テーマ 「地域とのつながりから石神井図書館を考える」
- 5 配布資料 (1)次第  
(2)これからの図書館構想の概要  
(3)昨年利用者懇談会以降のイベント一覧  
(4)子育て館内案内  
(5)介護館内案内  
(6)直近のイベントちらし5点（「自分の明日を考える～ひとり暮らしの在宅療養」「読書バリアフリーとディスレクシア～多様な読書のカタチ～in石神井図書館」「都立井草高校書道部によるライブパフォーマンス」「しゅっぱーつ！としょかんで文庫めぐり」「哲学を使って、文学・マンガ・アニメを100倍楽しむ方法」）  
(7)昨年利用者懇談会以後のイベント一覧  
(8)アンケート
- 6 次第
  - 1 石神井図書館長挨拶
  - 2 図書館職員紹介
  - 3 地域連携事業についての報告  
第1部 石神井地域の豊かな文化・自然・歴史の特色、魅力を伝える事業  
第2部 関係機関等と連携し、地域の課題解決・生活に役立つ情報発信  
－休憩－  
第3部 ボランティアや関係施設等と連携し、様々な世代への読書活動支援事業
  - 4 意見交換
  - 5 閉会の挨拶

### 石神井図書館利用者懇談会 会議録

#### 1 石神井図書館長挨拶

これから『練馬区立石神井図書館 令和7年度 図書館利用者懇談会』を開会いたします。館長をしております、廣川と申します。本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日のテーマは、昨年に引き続き「地域とのつながりから石神井図書館を考える」と題しまして、お話をさせて頂きたいと思っております。石神井図書館は地域連携を大切に考え、運営を進めておりま

す。本日いらっしゃるって頂いている皆様にも、日ごろから大変お世話になっております。本日はお手元の次第の通り、3部構成になっており、それぞれの報告の後に質疑応答の時間を設けたいと思います。また最後に本日ご出席いただきました地域のみなさま、図書館を利用されている団体のみなさま、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。

15時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしく願い申し上げます。

## 2 図書館職員紹介

館長、館長代理 4名

## 3 地域連携事業についての報告

### 【概要説明】

石神井図書館はお手元の『これからの図書館構想』の基本理念「世界につながる彩り豊かな知の情報拠点」に基づき、地域とともに歩む図書館を目指し、読書活動支援を土台としながら、近隣施設や関係部署、地域団体等の皆様と連携し、区民の暮らしに役立ち、地域社会の文化や生涯学習を支えていく知の基盤となる情報拠点として、様々な世代への読書支援と情報発信の充実を図っていきたいと考えています。

当館では、『これからの図書館構想』のコンセプト1「世界の知と出会い、学びを豊かにする」に基づき、「多様な世界の入口としての図書館」を念頭に、様々な分野の本を入口に多様な世界に出会える幅広いテーマのイベントや展示を実施しています。配布しましたイベント実施一覧が昨年度の懇談会後から今年の10月までに実施しました一般・児童・青少年の事業になります。

本日はこの中から、主に地域の皆様との連携により行っております、図書館構想のコンセプト2「練馬の文化を継承・発信する」、コンセプト3「知が交わり、創造を生み出す。」に基づいた事業について報告させていただきます。石神井図書館では次の3つの柱で地域に関する事業を考えています。

- ① 石神井地域の豊かな文化・自然・歴史の特色、魅力を伝える事業
- ② 関係機関等と連携し、地域の課題解決・生活に役立つ情報発信
- ③ ボランティアや関係施設等と連携し、様々な世代への読書活動支援事業

この3つの柱に沿ってお話します。

報告する各事業の参加人数と満足度につきましては、お手元のイベント一覧をご参照ください

### 【第1部】石神井地域の豊かな文化・自然・歴史の特色、魅力を伝える事業

それでは、まず石神井地域の豊かな文化・自然・歴史の特色、魅力を伝える事業について報告致します。

当館では、地域への愛着を育むことを目的に、自然、農業、歴史、文化の魅力を伝える事業を積極的に実施しています。

まず「地域の自然」の特色・魅力を伝える事業です。

練馬区は、都心に近い利便性と多様なみどりに包まれた住環境が両立しているところが特色ですが、とりわけ石神井地域は、石神井公園を中心に自然に恵まれた地域です。そのシンボリック的存在である都

立石神井公園の魅力伝える事業を積極的に実施しています。

毎年環境月間の6月には、都立石神井公園サービスセンターに依頼して、公園の「生物多様性保全への取組」についてパネルを作成頂き、展示しています。令和7年度も多様な生物が暮らすための公園づくりの取り組みとして、「浮島」「野鳥誘致林」「蝶々園」や、季節ごとの多様な生き物のサイクル等を紹介しています。また公園で活動する団体「石神井公園野鳥と自然の会」が作成した保全活動の報告等、多岐にわたる内容で、石神井公園の自然の多様さや、その多様さがどのように守られ、育まれているのかを伝えています。併せて、図書館では、石神井公園や生物多様性に関する本を展示しました。来館される多くの方に興味をもっていただいている展示です。

公園の魅力については、昨年11月に特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク！の樹木医を講師に招き、紅葉の美しい三宝寺池周辺の樹木の観察会を実施しました。前半は図書館で紅葉について等の講義を行い、その後石神井公園の三宝寺池周辺に自生している樹木の観察会を行いました。参加者からは「何気なく見ていた木の名前を知ることができて楽しかったです。」「樹木に対する知識が深まりもっと樹木について知りたくなりました。」等の声をいただき、身近な地域の魅力を再発見していただく、機会になったのではないかと思います。また、会場には樹木について調べることができる本を中心に、関連図書を展示しました。

石神井公園の魅力子ども達に伝える事業も行っています。令和6年度より「しゃくじいたんけんぶっく」と題して、石神井地域について楽しく学ぶをコンセプトに毎月クイズをカードにして配布し、カードを集めて綴ると冊子になるようにしています。令和6年度は石神井公園サービスセンターと連携し、石神井公園について幅広く学ぶことができるクイズを作成してもらい、図書館はそれについて調べる本を選定して掲載しています。こちらに見本がありますが、のちほど後ろに展示しますので、ご覧ください。

また公園のご協力で、公園の役割のひとつである防災設備について体験できるイベント、石神井わくわく探検「かまどベンチってなあに？—石神井公園がへんしん—」を実施しました。前半は図書館で防災の基本や石神井公園の防災設備についての講義を実施しました。会場には防災に関する本を展示しました。後半は石神井公園に行き、実際にかまどベンチや仮設トイレ、東屋のテントなど防災設備の設置や使い方を体験しました。子どもたちからは、「ひじょうようトイレがあることは少し知っていたけど、ほかにもいろいろなせつびがあることを知れてよかったです。」や、防災設備の使い方「東屋のシートをおろす」や「トイレのぼんぷで水をだすのが楽しかった！」という声が寄せられ、石神井公園の防災設備について楽しく学べる良いイベントとなりました。

もう1つ児童向け事業の報告です。当館で児童向けに行っている講義と体験を通して地域を知ってもらう「石神井わくわく探検シリーズ」で、今年は石神井川の魅力について知ることができるイベントを実施しました。みどりのまちづくりセンター助成事業のねりまジュニアレンジャー代表を講師に招き、前半は石神井川で生物の採集を行い、後半は図書館で図鑑などを使って採集した生物を調べました。石神井川は上流の湧き水が絶えず流れており、水質が良く、流れが急な場所もあるため、水が少なく流れが緩い場所での生物採集を行いました。参加者は殆どが区内在住者でしたが、石神井

川に入るのは初めてという方ばかりで、講師とジュニアレンジャーの子供達に生物の採り方を教えてもらおうと、それぞれ網を持って採集を行い、小魚やヤゴ、エビやヒルなどの生物を採集していました。私も初めて石神井川に入りましたが、水のきれいさには驚きました。

後半は採取した生物を図書館に持ち帰り、図書館の図鑑などを使って調べるとともに、講師が関連図書の紹介などを交え、石神井川についての講義を行いました。

参加した子供たちからは、「普段入れない川に入って、生き物を探せて良かった」「図書館で生き物を調べられたのも良かった」「思った以上に水が綺麗で、魚が良く見れた」等、貴重な体験を楽しんでいる様子が伝わる感想をいただきました。

次に練馬区の特徴のひとつである都市農業の魅力を伝える事業についてです。

今年の11月に開催されます「全国都市農業フェスティバル2025」の機運醸成を図るため、今年度は2つの事業を実施しました。

当館では2023年の全国都市農業フェスティバルの際に、近隣の10の農家に取材をし、こちらの「石神井図書館周辺“農”マップ」を作成しました。その際に取材をさせていただいた2つの農園と連携して、今年はイベントを実施しました。ひとつは児童向けに、「練馬区で作ったハーブでバスボムを作ろう!!」と題して、ハーブを入れたバスボムとポップリ作りを行いました。

ハーブは6月下旬に石神井町4丁目の豊田園芸で、図書館スタッフが摘み取りを行い、乾燥させたものを使用しました。またイベントの冒頭では、身近な場所にある農園の魅力を知らうため、「農マップ」を活用し、子供達に練馬区の農業について話をしました。子どもたちからは、「とてもいいものができてよかったとおもう」、バスボムやポップリづくりが「めちゃくちゃたのしかった」という感想が寄せられました。

9月下旬には、一般向けに、上石神井の農園“ベジファームかのん”を会場に、同農園の生産者による農園案内と栗の収穫の見学を行いました。会場には練馬区の都市農業に関する資料を展示しました。

はじめに図書館から、11月に開催される都市農業フェスティバルと石神井図書館で作成した農マップの紹介を行ってから、前半は、講師より都市農業について解説があり、収穫体験を実施するさつまいもやとうもろこしの抑制栽培など、少量多品目で育成を行っている農園の様子や、農福連携の取組で行っている原木しいたけを生産するハウスや、練馬区の「ねりコレ」に認定された商品「熟成ほしいも」を製造する機械等を案内頂きました。後半は、練馬区で開催される生産者の栗を使用した「練馬江戸栗プロジェクト」の案内があり、新たに取り組む栗のジョイント栽培について説明がありました。その後、栗が実る畑で栗の収穫を見学しました。こちらは今回特別に収穫体験をさせていただいた様子です。

参加者は10代～70代まで17名で、3組の中学生の親子連れもいました。参加者からは「都市農業について興味があり、実際にお話を聞けてよかった」「いつも食べている練馬の野菜・果物について、とてもよく理解できてよかった」などの感想をいただきました。

現在、こちらの農マップに続き、紹介させていただいた農園で実施している収穫体験や関連のマルシェ等についての情報等を掲載したガイドを鋭意作成中です。

今後も引き続き、図書館周辺の都市農業の魅力や情報を発信していきたいと考えています。

次に石神井の歴史の魅力を伝える事業についてです。

石神井地域の歴史を知るイベントも定期的を実施しています。今年には戦後 80 年に因み、石神井地域の戦争の記憶に思いを馳せる事業を行っています。郷土史家の葛城明彦氏を迎え、「太平洋戦争と石神井 知られざる戦争遺跡」と題して、前半は図書館で講義を行い、後半は近隣の戦争遺跡の見学を行いました。石神井公園の野外ステージの空襲爆撃跡や石神井中学校の不発弾発見跡地、防空壕跡などをめぐりました。石神井松の風文化公園では日本銀行の運動場についての逸話等をお話いただきました。参加者は熱心に耳を傾けており、アンケートの結果も大変好評で、「自分の家の近くにこのような歴史があったなんて驚きでした。」「石神井に住んで 10 年以上になりますが初めて聞くことばかりで新たな発見や気づきがあり、大変興味深く拝聴させていただきました。」などの感想を頂きました。こちらのイベントは毎回定員以上の希望者がおり、地域の歴史に関する興味の高さを感じています。

今年 7 月末から館内の各所で、戦争や平和に関する展示を行っています。現在も階段ギャラリーで戦後 80 年「昭和 20～30 年代の練馬の風景」と題して、練馬区総務部情報公開課より画像を借用し、太平洋戦争当時の練馬の様子を伝えるパネル展示を行っています。また終戦後から 10 年を過ぎたころの昭和 31～34 年の石神井公園商店街振興組合（現在パークロード石神井）の活気あふれる灯籠流しの様子を、商店街組合より写真を提供いただき展示しています。令和 6 年度は、こちらの灯籠流しの様子の写真とともにパークロード石神井の説明や歴史、昭和 30 年代当時の社会情勢等の年表を展示しました。地区ごとに競うように社会情勢を反映させた意匠をこらして作成した巨大な灯籠やまた旅ものの仮装をした参加者等、今では見ることもできないとても賑やかな様子の貴重な記録であり、多くの方の興味を引いていました。現在もその一部を展示しているので、後ほどぜひご覧ください。また、令和 6 年度と 7 年度は、こちらの縁で 8 月の第 1 土曜日に開催される納涼灯籠流しの夕べに、石神井図書館の灯籠も参加させていただいています。今年にはスタッフが 1 名漕ぎ手としても参加し、地域に石神井図書館を PR しました。

また、児童向けにも地域の歴史を知る事業を実施しています。さきほどご紹介しました「しゃくじいたんけんぶっく」ですが、今年度はふるさと文化館にご協力いただき、同館に所蔵してる展示品から図書館でクイズを作成し、実際にふるさと文化館の展示をみたり、図書館の本を使って調べてもらい、楽しみながら練馬の歴史を学んでもらうよう作成しています。クイズの内容については、同館の学芸員の方に校正していただいています。

次に紹介するのが、地域の文化の特色、魅力についてです。

当館では、石神井の大きな魅力のひとつとして、昭和 20 年～30 年代に作家・檀一雄を中心に石神井界隈に居を構え、文学的交流を繰り広げた作家たちについて伝える事業を積極的に実施しています。先ほども歴史のところでも紹介しましたが、今年には戦後 80 年に因んだ事業をひとつの柱として取り組んでいます。元ふるさと文化館の学芸員で、著作『檀一雄の従軍日記を読む』の編著者である山城千恵子氏を迎え、檀一雄が陸軍報道班員として大陸に渡り、約 10 か月の従軍生活を送った際に綴った従軍日記についてお話頂きました。2 冊のノートに書かれた肉筆の従軍日記を読み解き、時にはそこには書かれていない内容を他の作家の日記を参考に、檀一雄の足跡を丹念にたどり、気持ちの変化を

辿りながら檀一雄の文学にもたらされたものを丁寧に解説頂き、作家の世界に深く触れることができる素晴らしい内容でした。参加者からも「日記を活字化したり、読み解く方法を教えていただき、興味深く拝聴しました。」「山城さんの檀さんに対する熱意が伝わり、感動しますね。」「この肉筆の日記を活字に起こしたことは、後世に残るすばらしい功績だと感じました。」といった講義の内容に感銘を受けた様子が伝わる感想を多く頂きました。

また、石神井地域ゆかりの作家に関する調べ方を載せているパスファインダーとブックリストを作成しており、校正をふるさと文化館にお願いしています。これまで檀一雄、五味康祐、庄野潤三、草野心平を作成しております。こちらは後ろに展示しておりますので、後ほどご覧ください。

文化に関する事業をもうひとつ報告致します。当館では、石神井公園ふるさと文化館が刊行している『ねりまのむかしばなし』をもとに紙芝居を制作している練馬ふるさと紙芝居サークルの支援を行っています。同サークルは、「郷土を育む手作り紙芝居の制作」を主事業とし、平成30年度に石神井図書館が立ち上げ、現在は毎年2作品を紙芝居として作成、練馬区の図書館12館すべてで所蔵しています。うしろに令和6年度に作成した『ねりま大根』と『耳塚』を展示しておりますので、後ほどご覧ください。こちらの時代考証は、本日いらしているふるさと文化館の渡邊副館長にいただいています。

2月には、練馬ふるさと紙芝居サークルのメンバーが、石神井地域の昔話『三宝寺池の主と魚』『三枚のうろこ』『照姫』『てるひづか』を上演し、渡邊副館長にふるさと文化館で所蔵している関連資料を用いて、昔話の背景を解説していただきました。参加者からは「紙芝居が大変良くできており、語り手の読みも良かった。練馬の昔話を知る機会となりました。」「紙芝居と解説で背景・歴史を含めてとてもよく理解できました。」等の声が寄せられ、好評でした。私達も渡邊副館長の校正や解説を聞いて、図書館の資料を改めて確認するなど、学ばせていただいています。

また練馬ふるさと紙芝居サークルは、8月の第1日曜日に石神井氷川神社で行われています「ちゃが馬七夕」に参加しています。紙芝居の上演は今年で4回目となり、継続して来場する親子連れもあり、多くの参加者で賑わいました。会場には制作した紙芝居や図書館が協力して作成した「ねりまふるさと紙芝居マップ」も展示し、各紙芝居が語られた地域を紹介しました。区内に伝わる昔話をはじめ知った参加者も多く、手作りの紙芝居に感心する声も聞かれました。

現在このように練馬ふるさと紙芝居サークルは区内さまざま所で上演する機会を得ており、好評です。ぜひ皆さまのところでも、上演を依頼いただければと思います。

最後に、館内の地域に関する情報を発信しているコーナーを紹介します。こちらすぐ出たところにありますのが地域資料コーナーです。こちらには連携しているふるさと文化館とちひろ美術館・東京のコーナーを設けており、関連資料の所蔵とともに、開催している展覧会の関連展示や、先ほど紹介しました石神井ゆかりの作家のパスファインダーとブックリスト、関連ちらしやパンフレットを置いています。

また石神井公園のコーナーも設置しており、毎月公園が発行している月ごとの見どころ情報を置いています。農業関係のコーナーも設置していますので、ぜひご覧ください。

定期的に入替を行っている地域に関する展示コーナーでは、練馬区や石神井に関する展示を行って

います。現在は、館内全体で行っている展示「昭和」にあわせて、昭和の石神井地域を知る事ができる展示を行ってます。先ほど紹介しました階段展示でも、練馬区、特に石神井地域に関するパネル展示を定期的に行い、地域の特色や魅力を知るきっかけを提供したいと考えています。

児童の地域資料コーナーも児童室の入口のところに設置しています。地域調べに対応できる資料を所蔵し、利用しやすい環境を整えています。児童にも読める図版や写真の多い一般地域資料も置いており、内容の充実に努めています。こちらでも地域情報の発信として、近隣の連携施設の情報、石神井図書館で作成した「石神井図書館周辺“農”マップ」を配布しています。また子ども向けの地域調べに活用できる資料が少ないため、小学校の地域調べの単元で取り上げられる練馬区内の様々なテーマを項目に取り上げた、加除式の地域資料カードを作成しています。こちらもこのコーナーで手に取れるようになっていきます。毎年、年度はじめの学校訪問では、前年度に作成したシートを学校に寄贈しています。現在、図書館のホームページにリンクが貼ってある「練馬区立貫井図書館デジタルアーカイブ」ですべて見る事ができますので、そちらもぜひご活用ください。

また、さきほど紹介しましたたんけんぶっくも配布しており、手によりやすいよう工夫しています。クイズの回答も近くの壁に掲示しています。現在は、11月にたんけんぶっくを活用し、公園を探検する「はじめてのたんけんぶっく」を実施する広報も兼ねて、コーナーを拡大しております。たんけんぶっくで紹介した本も一緒に展示しています。お帰りの際には、ぜひご覧いただければと思います。

以上で、3つの柱の1つ目、石神井地域の豊かな文化・自然・歴史の特色、魅力を伝える事業の報告を終了いたします。

**図書館** 今までのところでご質問などありますか？

**利用者** すみません、ちょっと言いづらいんですが…、館長の話とレジュメ、プロジェクターの内容がバラバラで、どこを見ればいいのか分かりづらいです。目次の1、2、3も、何を見ながら話してるのか不明です。

**図書館** 申し訳ありません。今は次第の①の内容を説明していました。

**利用者** この資料を見ればいいんですね？「これからの図書館構想」の話はまだですよね？

**図書館** 構想については、冒頭で事業の説明をした際に使いました。

**利用者** 何を見ればいいのか、ちょっと混乱します。

**図書館** 申し訳ありません。スライドを見て頂ければと思います。それでは、2つ目の柱に移ります。登壇者が交代します。

ここからは、3つの柱の2つ目、「関係機関と連携し、地域の課題解決・生活に役立つ情報発信」について報告いたします。後からお配りしているそのイベント一覧に関しては使いませんので、今回どういったイベントがあったのか参考になればということでお配りしています。基本的にスライドを見て頂ければと思いますので、よろしく願いいたします。

図書館では、様々な部署や関係機関と連携し、生活に役立つ情報を発信しています。

当館での取り組みを、子育て支援・介護支援・障害福祉を知る・まちのみどりを育む活動・その他に分けて報告いたします。

1つ目の、主に乳幼児の保護者を対象に行っている子育て支援についてお話いたします。

子育ての悩みや疑問等を解決する手助けや、図書館を利用しやすい環境を提供することを目的に、子育てを支援している関係機関と連携し、様々な事業に取り組んでおります。今年度から新たに始めた取り組みも含めて、いくつかご紹介いたします。

「子育ての悩みや疑問等を解決する手助けをする」ことを目的に、地域子ども家庭支援センター大泉・大泉びよびよや、練馬区石神井保健相談所と連携し、事業を実施しております。

地域子ども家庭支援センター大泉と連携した事業では、大泉びよびよのすくすくアドバイザーの方を招き、未就学児のお子さんがある保護者向けに、子育ての悩みや疑問等を話す交流会を行いました。今年は、「ブックスタートの会」の皆様にもご協力いただき、ブックスタートの時間に続けて実施したことにより、1歳未満の乳幼児とその保護者の方をはじめ7組の親子にご参加いただきました。「ブックスタートの会」との連携事業については、後ほど三つの柱の3つ目「ボランティアや関係施設等と連携し、様々な世代への読書活動支援事業」の報告の際、ご紹介いたします。

地域子ども家庭支援センター大泉と連携した事業「小さなお子さんがいるパパ・ママ向け子育て応援出張びよびよひろば」では、子育ての悩みを気軽に相談できる場所として、「大泉びよびよ」があることや、大泉びよびよで行っているイベントなどをご紹介いただきました。また、参加された皆さんと、「今どのようなことに困っているのか」や「子育て中の工夫」などを話しました。その後、図書館スタッフによるよみきかせを行い、図書館が行っているおはなし会やよみきかせの紹介と、子育てに役立つ本の紹介も行いました。

今回の事業では、小さなお子さん連れでのアンケートのご記入は難しいと考え、需要がありそうなテーマをあらかじめボードに書いておき、気になるテーマにシールを貼っていただくという方法で参加された方々の声をきくことにしました。その結果、「保育園・幼稚園に関する情報」と「食事」について関心が高いことが分かったため、次回以降の事業に反映していきたいと考えております。

練馬区石神井保健相談所歯科健康担当係と連携した「絵本と歯ブラシで親子のコミュニケーション」では、0～2歳児の親子を対象に、歯磨きのポイントや虫歯予防についてお話いただきました。参加された皆さんは、最後まで熱心に聞き入っており、イベント終了後も残って相談している方も多くみられました。アンケートでは、「勉強になった」や「子どもの歯に関しての疑問がなくなった」などの声が寄せられ、子育ての悩みを解決する一助となったことが実感できるイベントとなりました。

「読書や調べものなど、図書館を利用しやすい環境を提供する」ことを目的に、託児サービスを行っております。特定非営利活動法人「手をつなご」へ依頼し、年6回行っている「子育て家庭の読書支援のための図書館利用者向け託児サービス」は、毎回定員を大幅に超える申込をいただき、利用され

た方から「普段できない読書がたっぷりできた」との声も寄せられております。

昨年度からは、練馬区立男女共同参画センターえーるで実施している「本の時間 保育付ブックタイム事業」を、特定非営利活動法人「手をつなご」や「保育サービスぽてと」に依頼し、当館でも実施いたしました。こちらにも定員を上回る申込をいただき、「子供を預かってもらって自分の自由な時間を過ごせました。」や「ゆっくり本がよめてよかったです。」などの声を頂戴しました。

どちらの事業も、子育て支援だけでなく、読書活動支援としても意義を感じられるものとなっております。

ここで、館内で実施している子育てを応援する様々な取り組みを紹介いたします。

児童室入口に「子育て応援情報コーナー」というラックがあるのをご存知でしょうか。「子ども家庭支援センター」「子育ての悩み」「子育て支援情報」など、練馬区内の子育てに関する取組のパンフレットやちらしを項目ごとに設置しております。

育児関連の本が置いてある棚には、「妊娠・出産」に関連する情報を置いています。こちらには、本日皆様にもお配りしております「石神井図書館 館内ガイド 子育て編」も設置しており、1ページ目には、子育てについて調べるためのキーワードを、ページをめくった中側には、館内マップとして、子育てに役立つ本や雑誌等が置いてある場所の紹介を、4ページ目には、育児に役立つインターネット情報や定例のおはなし会の情報を載せております。こちらは、図書館の育児に役立つ面も知っていただきたいと思い、作成いたしました。

また、このマップに載っている授乳室は、先月スタッフが装飾し、育児中の方により親しみを感じてもらえる空間となっております。

子育て支援の最後の紹介は、今年度新たに始めた2つの取組です。

1つ目の取組は 幼児とその保護者を対象に実施した本の紹介付き工作会「わくわくはじめての工作会」です。工作内容に関連した本の紹介や、季節に合わせた工作をメインに、絵本のよみきかせも行う構成となっております。6月は、カタツムリとあじさい、9月は、ぶどう模様のマラカスとおでかけバックを作成しました。9月の工作会では、「どんぐりころころ」の歌にあわせて作ったマラカスを振ったり一緒に歌ったりもしました。普段、図書館内は撮影禁止となっておりますが、雰囲気に合わせてフォトスポットを設置し、工作会の最後には、子供と作品と一緒に写真撮影してよい時間も設けております。この企画は育児中のスタッフの、子どもの記念になるようなものを作りたいお母さん方のために、家でやるのが大変な工作を行える場所を提供したい、という声から生まれました。フォトスポットも赤ちゃんと一緒に写真をとる機会がなかなかないというところに目をつけた同スタッフの発案です。実際に好評で、アンケートでも、「親子で楽しめました。」や「家ではなかなかやらないのでとても楽しかったです。」等の感想をいただいております。

2つ目の取組は9月から児童室で毎週水曜日の午前中に実施している「おしゃべりタイム」です。4月から「ブックスタートの会」の方にご協力いただき、毎月第4水曜日のブックスタート終了後、こちらの会議室を開放して自由に過ごしてもらおう事業を行っていましたが、あまり利用が伸びなかったため、回数を増やし、場所も児童室に変更いたしました。あわせて絵本コーナーに、先ほどご紹介した「石神井図書館 館内ガイド 子育て編」の館内マップの掲示や、普段児童室に置いていない子育てに役立つ資料の展示などもしております。こちらの利用も好評で、常設展示も検討中です。

次に、生活お役立ちテーマとして、昨年度から介護予防を目的に石神井地域包括支援センターのご協力で「出張型街かどケアカフェ」の一環として実施している「生活お役立ち講座 体操で健康な体をつくろう！」についてご紹介いたします。この事業では、体操講師を迎え、楽しく体を動かしたあと、高齢者に役立つ情報の提供をしています。今年度は3回実施予定で、4月に行った1回目は練馬区消費生活センター職員による消費者トラブルについての講座を行いました。熱心に聞いている参加者が多く有意義な事業となっております。参加者からは「頭と体の体操できました。」や「消費者トラブル防止の話、初めてで参考になります。」等の声を頂きました。

2回目は本日の午前中、マキノ祭典社長室課長に、練馬区が発行している「私の生き方ノート」を使いながら、終活についての講座をしていただきました。より多くの方に情報が届くよう、今後も継続して実施していきたいと考えております。

また、この事業では、講座の関連図書の展示と紹介や、皆様にもお配りしております「石神井図書館内ガイド 介護編」の配布も行っております。こちらには、介護に役立つ本・雑誌等が置いてある棚や館内のバリアフリー設備の紹介、介護に役立つインターネットサイトの情報を載せております。

「障害福祉を知る」では、「地域の障害福祉を知る」をテーマに、お向かいの白百合福祉作業所と連携し、「出張！白百合福祉作業所」を実施いたしました。こちらは、今年で3回目となり、会場内に、同作業所の活動内容を紹介するパネル5点の展示と、自主製品である「さをり織り」や「手すき葉書」などの紹介をしました。また、仕事内容の体験企画として、自主製品のひとつであるオリジナル缶バッジ作りも実施していただきました。アンケートでは、「白百合作業所について詳しく知ることができた」等の感想が寄せられました。白百合福祉作業所の職員の方から、毎回このイベントが、白百合福祉作業所に足を運ぶきっかけになっている方がいらっしゃるというお話も伺っております。このイベントを通じ、白百合福祉作業所の活動が広く周知されるとともに、施設利用者と地域住民との交流が深まるきっかけのひとつとなればと考えております。こちらも継続的に実施していきたいと考えております。

他にも、「障害福祉を知る」ための活動として、「障害についての理解を深め、誰もが相互に尊重し合える地域生活を実現する一助となること」を目的に、3月に石神井障害者地域生活支援センターういんぐの元所長を講師にお迎えし、講座「知ることから始めよう！ともに考える障害理解について」を実施しました。障害についての基本的な考え方や、合理的配慮についてお話しいただいたあと、身体的、知的、発達、精神の障害について、一つ一つ具体的な特性を教えていただきました。相談先も詳しく紹介していただき、講義中の質疑応答だけでなく、講義終了後も参加者が次々に講師へ質問する姿がみられ、情報を必要としている方に情報提供ができたことと実感できるイベントとなりました。アンケートでは、「長い経験をもとに、障害をおもちの方の生の声をきけた。」や「白百合福祉作業所でボランティアに入っているので参考になった。」などの声をいただきました。

また、石神井障害者地域生活支援センターういんぐの方には、毎年当館の職員に向けて障害理解や合理的配慮についての研修をしていただいております。

次に、今年度初の試みとして実施した「みどりを育む活動を始めるきっかけとなること」を目的とす

る事業を紹介いたします。

石神井地域は石神井公園を中心に、憩いの森や農地が点在しており、区内でもひとときわ緑が豊かな場所です。実際にみどりを育む素敵な活動をされている団体が多いことを知り、地域の活動と住民を結ぶ事業を実施したいと考え、第一弾として、「まちのみどりを育む活動に参加してみませんか？」というイベントを実施しました。練馬区環境部みどり推進課の方に、練馬区のみどりの現状や、「みどりの活動」のフィールドについての方にお話いただき、その後、練馬区環境まちづくり公社みどりのまちづくりセンターの方に、同センターの役割や取り組みについて、またまちのみどりの効果や「まちのみどりを守り、育む活動」について、どのような活動の選択肢や探し方があるのか、具体的にお話いただきました。あわせて自宅の緑化助成制度についての説明と、石神井地域で実際に活動しているまちの花壇づくりや、憩いの森を管理する団体の紹介もして頂き、練馬区の取組を網羅的に発信することができたのではないかと考えております。

図書館では、みどりに関する施策の資料の展示や、まちづくりセンサーの発行しているまちづくり広報誌「こもれび」の紹介などを行いました。また、石神井地域でみどりを育む活動をしている団体の方にご協力いただき、活動をする上で参考になった本を紹介いただきました。こちらは、イベントの際におすすめ本として展示いたしました。質疑応答では、「石神井公園で活動するにはどうしたら良いのか？」や「興味があり参加してみたいが、まずはどこに連絡をすれば良いのか」など、具体的な質問が多く出ました。アンケートでは、「練馬区の緑の状況がよくわかりました。」や「いろいろな活動をしている団体があることもわかりました。また区としての取り組みがわかりよかったです。」などの声をいただきました。今後、地域の皆様の活動のきっかけとなるよう、館内にみどりを育む施策や活動に関する資料のコーナーの設置、実際、石神井地域で活動している団体の情報発信をしていきたいと考えております。

最後に、その他に分けた3つの取り組みを紹介いたします。

1つ目は、医療・健康情報を他部署と連携して発信する事業です。

順天堂大学医学部附属練馬病院の医師を講師とし、練馬区健康部健康推進課健康づくり係が開催したオンライン講座「がんと診断された時から始まる緩和ケア」の後日 DVD 上映会を実施いたしました。上映会の際には、緩和ケアに関する関連資料を展示しました。健康推進課からは、昨年発行された「練馬区がんサポートブック」についての紹介や、がん患者への助成事業の案内がありました。

2つ目は、毎年実施している練馬区地域医療担当部地域医療課主催事業である在宅療養に関する講演会の後日 DVD 上映会です。今年も11月15日に実施予定となっており、ひとり暮らしの在宅療養をテーマに、練馬区で在宅療養に携わっている医師の講演会を上映いたします。館内でも、練馬区が取り組んでいる医療・健康情報についての展示を積極的に実施しております。現在は、10月が乳がん月間であることから、乳がん関連図書の展示や、がんサポートのパンフレットの配布を行っております。また、子育て支援や介護支援と同様に、館内の医療・健康に関する本や雑誌等を探ることができる館内ガイドも作成中です。

3つ目は、練馬区地域文化部協働推進課との連携事業の紹介です。地域で活動する団体と地域住民をつなげる活動の支援を目的に、毎年「地域活動パネル」展を行っております。パネル展にあわせて、地域で活動する団体のおすすめ本の展示も行っております。不登校・子どもの居場所、地域交流の場

所をつくる活動をされている「小さなうち」をはじめとする、石神井地域で活動している団体の紹介を行いました。

以上で、3つの柱の2つ目、「関係機関と連携し、地域の課題解決・生活に役立つ情報発信」についての報告を終了いたします。

**図書館** ご質問のある方いらっしゃいますか。(挙手なし)

無いようでしたら、ここで5分程休憩を取ります。

－休憩－

次に3つの柱の3つ目「ボランティアや関係施設等と連携し、様々な世代への読書支援事業について」報告致します。当館の取組みを児童向け読書支援・高齢者向け読書支援・本を通して地域のイベントに参加の3つに分けてご報告いたします。

まず始めに児童向けの読書支援についてお話しします。

石神井図書館では、練馬区子ども読書活動推進計画(第5次)の基本的な考え方である「すべての子どもが読書を楽しみ、豊かな心を育むことができる社会の実現」を目指し、子どもたちが読書に喜びを覚え、魅力あるさまざまな本との出会いや心躍る読書体験のきっかけを提供できるよう、家庭・学校・地域と連携し、それぞれの年代の子どもに応じた読書活動を支援しております。

最初に石神井図書館内でのボランティアやサークルの方々との連携事業についての事例をご報告いたします。

当館では、「石神井ブックスタートの会」の皆様が、毎週水曜日と第2・第4土曜日にブックスタートを実施しています。練馬区では4か月児健康診査の対象となる乳児とその保護者を対象に、絵本を通じて親子のふれあいを深め、また絵本に親しんでもらえることを目的に、絵本をお渡しする事業を実施しています。ブックスタートでは、絵本をお渡しするだけでなく、近隣の子育て支援施設のご紹介、読み聞かせ、わらべうた・手あそびの紹介などを行っています。石神井図書館は区内でも参加者が多い館であり、毎回到ぎわいを見せております。

続いて、よみきかせ・おはなし会について報告いたします。

乳幼児向けに実施しているあかちゃんおはなし会を第1・第3金曜日の10時30分から行っております。毎回多くの参加があり、ジョイントマットが足りなくなるほどの盛況ぶりで、嬉しい悲鳴を上げることもあります。また、幼児から低学年向けのよみきかせは第3を除く水曜日の午後3時から、おはなし会は第3水曜日の午後3時から行っております。

参加者数には波がありますが、特に小学生になると学校や習い事で忙しくなるため、どうすれば図書館に足を運んでもらえるかを考えて、季節を感じる絵本を選んだり、紙芝居や手遊び、歌などを盛り込むことで飽きのこない構成になるようボランティアの方々や相談しながらプログラムを工夫しています。このように、発達段階に応じた事業を行うことにより、子どもたちが継続的に図書館を利用できる環境づくりに努めています。

次に布の絵本制作の事例についてご報告いたします。

当館では第2・第4火曜日に布の絵本の会こぶしの方々が活動されています。

布の絵本はさまざまな障害のある子どもたちのために作られたのが始まりです。フェルト・スナップなどを用いて、はずす・はめるなどの動作を遊びながら身に付けることのできる、絵本と教具・遊具の要素を備えたものです。サークルで作成した布の絵本は図書館で所蔵しており、練馬区は現在1300冊ほど、都内で最大の所蔵数があります。練馬区では貸出も行えることから、障害を持つ方だけでなく、多くの乳幼児にも親しまれています。

昨年こぶしの会が新しく制作した作品は『もぐもぐぱっくん』『なにするくるま』『ゆびがびよこ』の3作品で、中でもオリジナル作品の『ゆびがびよこ』は、左手の指を布のえほんの穴に通してページをめくると、楽しい仕掛けが現れるユニークな作品です。本日、後方に展示しておりますので、後ほどぜひ手に取ってご覧ください。

今年はねりま子どもと本ネットワーク (NCBN) の方と協働で、図書館で本の探検ラリーを行いました。この事業は、子どもたちが難易度に応じて用意された図書を読みながら、クイズ形式で問題を解いていく参加型イベントです。3問正解すると「本の探検家認定証」シールがもらえます。4月26日・27日の2日間石神井図書館で開催し、234人もの参加がありました。家族や友人同士での参加があり、大変にぎやかなイベントとなりました。

NCBNの皆様には、毎年小学校で行っている探検ラリーでもご協力いただいております。

続いての事例は、練馬人形劇サークルに所属している「おむすび座」に依頼して行った「みんなあつまれ！にんぎょうげき」についてです。去年は『ぐりとぐらのえんそく』、布のまき絵『おじぞうさん』、歌『ひのたまかぞえうた』『はたらくくるま』を上演していただきました。参加者からは、「面白かった」「子どもたちもあきずに楽しめる長さで内容でした」等の感想が寄せられ、大盛況となりました。今年度は1月に獅子舞と人形劇を披露していただく予定です。

以上がボランティアやサークルの皆様との連携事業の報告となります。

続いて、支援校との連携で行っているおはなし会について2つの事例をご報告いたします。

1つ目の事例は、7月に行われた「石神井中学校家庭部によるスペシャルおはなし会」です。生徒たちが部活で一生懸命取り組んできた様子を感じられる、楽しいよみかせでした。特に参加型の紙芝居では、子どもたちが一緒に手をたたくなど楽しそうな様子がみられ、アンケートでは「みなさんの一生懸命な姿がとてもよく、子どももとても楽しんでいました。」「みなさん聞いているこちらの方を見て、語りかけるように読んでおられ本当によかったです。」などの感想をいただき、参加者と中学生が一体となる素敵な会となりました。

2つ目は、「Once Upon a Storytime—高校生団体 ISS storytellers による English おはなし会—」の事例をご紹介します。このイベントは、東京学芸大学附属国際中等教育学校の高校2年生による、英語のよみかせです。高校生たちは、参加していた子どもたちに積極的に声をかけながら、絵本に近づいてもらい、英語の発声を促したり、小道具を使ったりと、飽きさせない工夫を凝らしていました。子どもたちにとっても、親しみやすい年齢の高校生との交流は楽しい体験となり、アンケートで

は「工夫があり楽しかったです」「英語にふれることがあまりないので良いイベントでした」「子どもが絵本を通じて異文化や外国語に触れられる貴重な機会でした」といった声が寄せられました。

このような学校との連携による読書活動支援事業は図書館員が実施するおはなし会とは違い、参加者、演者双方の子どもたちにとって新鮮な読書体験となるものと思います。また、近隣の中学校や高校に興味を持つ機会にもなっております。今後も図書館で支援し、実施していきたいと考えています。

石神井図書館は近隣の小中学校あわせて 11 校の支援をしており、クラス単位で貸出を行う、団体貸出、小学 2 年生を対象にした図書館見学、中学 2 年生を対象にした職場体験、高校生を対象にしたボランティア活動、初任者研修での教職員の受入なども行っております。

また、石神井図書館の特色として、「出張図書館見学」も行っております。出張図書館見学では、学校に出向き、予め館内を撮影した DVD を見ながら館内の説明をしています。その後子供たちからの質疑応答の時間を取ったり、よみきかせやパネルシアターなど楽しく本の世界を体験できる時間を設けています。コロナ禍で、図書館に来られない学校が多くあった時に、石神井図書館では出張図書館見学を行うようになりました。1 学年の生徒を移動させることが難しい、時間が取れないという学校のニーズにも応えられるため、現在も要望のある学校には図書館のスタッフが伺っています。今年度は、光和小学校と大泉東小学校から依頼がありました。いつもと違う授業のためか、生徒たちも楽しく話を聞いてくれます。

毎年 10 月 27 日～11 月 9 日の秋の読書旬間の期間に石神井小学校からの依頼を受け、よみきかせ、本の探検ラリー、ブックトークを行っています。昨日は小学 3 年生に向けてのりものというテーマに沿って本の紹介をするブックトークを行いました。子供達が、紹介した本を我先に読んでいる様子が印象的でした。また、今年は上石神井北小学校からも依頼を受け、よみきかせとブックトークを行ってきました。それぞれのクラスで行うよみきかせやブックトークは、反応も様々で行うこちらもライブ感があり、楽しく、緊張感もある事業です。

本の探検ラリーは、ねりま子どもと本ネットワーク（NCBN）にご協力いただき、今年は 11 月 12・13 日で行う予定です。

その他の学校との連携事業として、昨年に引き続き、都立大泉高等学校附属中学校の 1 年生が作成した POP と、紹介されていた本を 2 階に展示しました。全生徒 150 人ほどの作品を 2 回に分けて展示しましたが、POP は利用者からの反響が大きく今後も続けていきたいと考えております。

このように、石神井図書館では学校との連携を通じて、子どもたちの読書活動を多角的に支援しています。

以上が学校支援についてのご報告になります。

次に児童施設への出張で行っているおはなし会についてご報告いたします。石神井図書館では積極的に地域の児童向け施設を訪問し読書支援を行っています。3 つの事例をご報告します。

1 例目は、昨年行った、認定こども園石神井南幼稚園の出張おはなし会についてです。園児 300 名を

対象に、パネルシアターや手あそびなどを行いました。おはなしに合わせた音響効果を取り入れながらパネルシアターを展開し、子どもたちが絵本とは異なるおはなしの世界に入り込み、楽しんでいる様子を見ることができました。

2 例目は、民間学童保育「こどもフローラ」からの依頼により、小学1年生から4年生程度を対象とした出張おはなし会を実施しました。会場は放課後児童の広場施設内で、クイズやゲームを交えた参加型の読み聞かせ「アニマシオン」を2作品行いました。

1 作品目では、読み聞かせの後に物語に関するクイズを出題しました。2 作品目では、読み間違えた箇所を当ててもらおうゲームを行いました。普段の読み聞かせとは一味違う内容で、子どもたちは積極的に手を挙げて答えており、より絵本の世界に入りこんで楽しんでいる様子でした。

3 例目は、石神井児童館で開催されたクリスマスイベント「わんぱく年末おたのしみ会」の演目のひとつとして、出張おはなし会を行いました。平日午前中の開催ということもあり、乳幼児や未就学児童とその保護者を対象とした低年齢向けの内容となりました。おもちゃのチャチャチャ」の歌に合わせたブラックパネルシアターでは、チャチャチャのタイミングで手をたたきながら、親子で楽しく参加する姿が見られました。他の演目でも、物語に集中する子どもたちや、一緒に歌う親子の姿があり、終始和やかな雰囲気でした。

今年度新たな試みとして、児童書のリサイクル本の頒布会を、近隣の幼稚園、保育園、養護施設、児童館等を対象に実施しました。事前に26の近隣施設・団体に向けて案内を送り、14団体の参加がありました。会場では、児童書や青少年向け資料を分野ごとに分類して配置し、各団体が自由に選んで持ち帰る形式としました。アンケートでは、「また頒布会をやってほしい」「子どもたちと一緒に利用してみたい」「定期的にやってほしい」など反響は大きく、特に絵本が人気を集め、地域での資料の有効活用と読書支援の両面において、有意義なイベントとなりました。

石神井図書館では、児童向け以外にも高齢者施設や地域へのおはなし会を実施しています。地域の高齢者施設との連携事業として、ボランティアの方々にもご協力いただきながら、図書館への来館が困難な高齢者向けに出張おはなし会を実施しています。

今年度は4月と10月に特別養護老人ホームでのおはなし会を実施しました。大型絵本や紙芝居のよみきかせ、季節に合った詩の朗読や体操等でプログラムを構成しています。どちらの会も、皆とても積極的に参加してくれました。先日伺ったときも、全員で行った朗読の際には、参加者は大きな声ではっきりと読み上げており、歌も楽しそうに歌っていました。最後の挨拶をした時には「まだいればいいじゃない」との声も上がり、楽しんでいただけた様子が伺えました。

地域の読書活動支援の一環として、図書館の取り組みを広く知っていただくために、本を通じて地域のイベントにも積極的に参加しています。4つの事例をご報告します。

1つ目の事例は、石神井氷川神社で5月に開催されるイベント「井のいち」に、南田中図書館と合同で参加しました。本の展示「こもれび図書館」では、昨年井のいちの来場者と図書館で募集した本の展示を行いました。本の展示と同時に、今年の井のいちの来場者からおすすめする本の募集を行い、展示してある本の感想をコメントカードへ記入していただきました。来場者から「子供

の頃に好きで読んでいた恐竜の絵本に 20 何年かぶりに再会して感激しました！」、「図書館の本をイベントで読めるのが驚きで新鮮です」などの感想をいただきました。

おはなし会では親子連れが多く、大型絵本や手あそびは親子で楽しむ姿が見られ、エプロンシアターの仕掛けには大きな歓声が上がるなど、にぎやかなおはなし会となりました。

2 つ目の事例、白百合福祉作業所主催の「しらゆりまつり」は、今年 10 月に開催されましたが、2 階のスペースで、食欲の秋にちなんだ“おいしいおはなし”をテーマに、大型絵本や紙芝居、エプロンシアターを実施しました。未就学児から高齢者まで幅広い年齢層が参加し、手あそびや掛け声で会場が一体となりました。

3 つ目の事例は、練馬区産業経済部経済課消費生活係と消費生活展実行委員会の共催で石神井公園区民交流センターで行った「消費生活展ねりま」の参加についてです。去年は、同イベントのテーマの一つである「食」に合わせ、会場内に図書館ブースを設置し、関連する本の展示や、よみきかせ、パネルシアターを行いました。パネルシアターでは子どもたちが声を出して参加する場面もあり、大盛況でした。今年度は 2 月に開催予定です。

最後に東京都立石神井公園主催の地域イベント「シンクエシカルパークデイ」の事例についてご紹介します。石神井公園で開催される地域密着型のイベントで、環境・社会・地域への配慮をテーマにしたワークショップや出店が行われます。図書館でも環境や SDGS をテーマに、本の展示・読み聞かせ・ワークショップを実施しました。ワークショップで行った、クラフト紙やセロファンを使ったしおり作りは、幼児から大人まで楽しんでいただけました。

地域の皆さまとの連携を通じて、図書館の活動に初めて触れる方々にも読書の楽しさを届けることができたのではないかと考えております。今後も、世代を問わず多くの方々に読書支援を行えるよう、地域連携に積極的に取り組んでまいります。

以上が三つめの柱「ボランティアや関係施設等と連携し、様々な世代への読書支援事業について」のご報告となります。

最後に、毎年 10 月 27 日から 11 月 9 日の読書週間にちなみ、石神井図書館では、館内全体で共通テーマで展示を行っております。今年度は昭和元年から数えてちょうど 100 年目にあたる節目の年であることから、今年のテーマは「昭和」としました。文学や暮らし、文化、歴史など、さまざまな視点から昭和を振り返るような本や CD を展示しています。また、児童コーナーでは昔懐かしい絵本や昔の暮らしに関する本、青少年コーナーでは昭和のアイドルのヒット曲をヒントにした本など、世代を超えて楽しめる内容となっています。

正面入口前の展示棚の横には、展示の場所を示した館内マップも掲示していますので、ぜひ館内を巡ってご覧いただければと思います。報告は以上となります。

**図書館** ご質問のある方いらっしゃいますか？

**利用者** 初参加です。ありがとうございます。2 点あります。

1 つ目は、書店活性化プランについて。図書館と地元書店の連携が求められていて、他自治体ですら事例もあります。練馬区でもぜひ検討してほしいです。

2 つ目は予算について。図書館費は増えているのに資料費は減っていて、購入冊数も減少しています。

資料費の増額を行政に働きかけてほしいです。

**図書館** ありがとうございます。書店との連携は、一部で書店を含めた本にまつわる場所の紹介マップなどの取り組みがありますが、練馬区ではまだあまり進んでいませんので、今後の課題になるかと思えます。資料費については、限られた予算内でいかに適切に本を選定していくかが重要だと思っています。石神井図書館としては、図書館がいかに区民の役に立つかを PR していければと思います。

**利用者** 図書館費って国からの交付金じゃないですよね？

**図書館** はい、違います。

**利用者** 東京都は税収が増えてるので、もっと要求していいと思います。

**図書館** ありがとうございます。図書館の役割をしっかりと伝えていきたいと思えます。ご質問ありがとうございました。

#### 4 意見交換

**図書館** それではここからは、みなさまとの意見交換の時間とさせていただきます。ご発言に際しましてですが、発言なさる方はお話いただく前に団体名をおっしゃってから、ご発言いただきますよう、お願いいたします。一人でも多くの方にご発言いただきたいため、大変恐れいりますが、ご発言はおひとり様 3 分程度とさせていただきます。皆様との懇談会が有意義なものとなりますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、さきほど冒頭でも申し上げましたが、本日のテーマは「地域とのつながりから石神井図書館を考える～これからの図書館サービスについて」でございます。

そのため、館独自で答えられないような、例えば図書館システムに関わる内容など、区立図書館全体に関することはお答えできない場合があります。その際は、練馬区立図書館を総括しています光が丘図書館に、その内容を伝えます。後日、光が丘図書館と調整して、ホームページで回答させていただきます予定です。

また、よろしければ、11月20日（木）午後3時～5時に行われます、光が丘図書館での懇談会にご参加いただいて、そちらで質問していただければ、より詳しい回答があると思えます。

**利用者** 布の絵本の会こぶしから参りました。先程ご紹介もありましたが、月 2 回火曜日に会員 15 名で集まりまして、布の絵本の作成をし、年間 3 冊ほど石神井図書館の方にボランティアとして作成したものを提出しております。大変充実した楽しい会ですので、よろしければご参加ください。

**利用者** 高齢者施設で読み聞かせをしています。今年は 2 回実施しましたが、コロナ前は月 2～3 回ほど行っていたので、まだ十分に復活できていないのが現状です。高齢の方にも喜ばれますし、ボランティア希望者も多いので、今後回数を増やしていただけると嬉しいです。

また、イベントが多く紹介されていましたが、石神井図書館ならではの、継続的に深めていけるよう

な取り組みがあるといいなと感じました。以上です。

**利用者** ふるさと文化館です。いつも事業にご協力させていただいております。おそらくコンセプト2の枠で関わらせていただいているかと思います。

石神井図書館さんとは紙芝居や文学者の紹介など、本の内容に繋がる形で協力できていると感じています。ただ、他の図書館から地域の歴史など一般的なテーマで話してほしいと依頼されることもあり、それが図書館の本来の目的とどう結びつくのか悩むことがあります。できれば、うちで出している図録などをもとに話すことで、図書と繋がり、利用者の方が本に触れるきっかけになるのではと思っています。

**利用者** 石神井障害者地域生活支援センターういんぐです。今回初めて参加させていただきました。昨年3月には、元所長が「障害の理解」について講演をさせていただきました。

利用者の中には図書館をよく利用される方もいて、静かな場所が好きな方もいれば、そういった環境が苦手な方もいます。それでも、図書館は日中過ごせる居場所としてとても良い環境だと感じています。私たちの施設でも利用者向けにプログラムを行っています。今後、何か連携できる機会があれば嬉しいです。よろしく願いいたします。

**図書館** 今日の機会をぜひ活用していただければと思います。

**利用者** ありがとうございます。あと1点ですが、うちの施設には精神障害のある方が多く利用されていて、詩や文章を書く方も多いです。ただ、人に見せるのはハードルが高いようです。今回のお話を聞いていて、もし作品展のような機会があると、そうした方々にとっても嬉しい場になるのではと感じました。どうもありがとうございました。

**図書館** ご提案ありがとうございます。ぜひ検討させていただければと思います。

**利用者** 石神井公園商店街振興組合です。私も初めてなもので図書館がどのようなことをやっているかということをお勉強させていただきました。商店街としても、何か石神井図書館さんに関わることがないかと少し考えさせていただきたいと思います。

**利用者** 練馬文庫連絡会に所属している者で、とりあえず行ってくださいと言われて来ました。多分石神井図書館さんと直接何かをしていることはないと思うんですけど、練馬文庫連絡会の会議をするのは貫井図書館さんの方が多いので、色々連絡したりとか光が丘図書館さんとはやってると思うんですが、ごめんなさい、今日はそんな感じです。

**図書館** ちょうど11月の29日に石神井地域で活動されている文庫の方の紹介をする事業を実施する予定ですので、ちょうどチラシも入っておりますので、皆さんこちらの方も見て頂ければと思います。ありがとうございます。

**利用者** ブックスタートの会から参りました。いつもお世話になっております。乳幼児や子育て支援に力を入れていただいていることに感謝しています。

イベントもたくさん開催されていますが、ブックスタートの際に図書館のお知らせをしても、参加者が毎回数組程度で、申し込みが通らなかったという声もあります。イベントは色々あるのも良いですが、「毎週〇曜日に開催」など、定期的に決まったものがあると参加しやすいと思います。

また、フォトスポットの設置や、オムツの廃棄ができる環境があると嬉しいです。提案としてお伝えしました。

**利用者** ねりまおはなしの会から来ました。私は石神井に住んでいて、月に1回こちらで子どもたちにお話をしています。図書館でのおはなし会は、昔おじいちゃんおばあちゃんが家庭でしていた語りを今の形で受け継いでいると思います。特に小さいお子さんや妊娠中のお母さんたちにとって、こうした場はとても大切です。ただ、月1回だと来られない方もいるので、回数が増えるともっと気軽に参加できるかなと思っています。これからも協力して続けていけたら嬉しいです。よろしくお願ひします。

**図書館** ぜひよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

**利用者** 練馬地域文庫サービス連絡会に所属しています。子どもと絵本のラリーや布の絵本など、練馬区で活動しています。職員の皆さんが多く取り組みをされていて頭が下がる思いですが、活動が広がる一方で、1つ1つの深まりが薄れてしまうこともあると感じています。やはり図書館としての本との結びつきを大切にさせていただきたいです。地域や各部署との連携の中でも、「図書」という軸を意識して取り組んでいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

**利用者** 光が丘図書館の利用者の会の一員です。今日の報告を聞いて、皆さんがとても活発に活動されていると感じました。ただ、前回参加した際にも感じたのですが、行事やイベントの準備が大変そうで、利用者に向けた視点がもう少し重視されるといいなと思いました。今回は特にイベントの紹介が中心だったので、そう感じたのかもかもしれません。一生懸命取り組まれていることは伝わってきました。以上、感想です。

**利用者** 上石神井児童館です。今、中高生の居場所づくりに力を入れていて、図書館は静かで集中できる環境なので、子どもたちにとって大切な場所になっていると感じています。

要望になってしまいますが、小学校のように児童館でも団体貸出の仕組みがあるとありがたいです。関町図書館が最寄りですが、距離があるため、児童館まで本を届けていただくと、もっと多くの子どもたちに本を届けられると思います。

また、石神井地域ではお父さん向けの読み聞かせも行っていて、どう読めばいいかという相談も多く受けています。地域と連携して、こうした取り組みが広がっていくと嬉しいです。ありがとうございます。

**利用者** 石神井台児童館です。先日リサイクル本をいただき、児童館で活用させていただいていま

す。ありがとうございます。

児童館も子どもたちの居場所ですが、本が好きな子にとっては図書館がかけがえのない場所だと感じています。地域のお母さんから居場所について相談を受けることもあり、こちらの図書館をご紹介することもあります。

小さい頃から本に触れることで、知識だけでなく創造性や夢を広げる力にもつながると思います。今後も児童館として図書館と連携していけたら嬉しいです。よろしく願いいたします。

**利用者** NPO 法人石神井小さなうちから参りました。学校に行かない選択をした子どもたちの居場所として、平日の朝から昼まで開いて活動しています。給食も出して、みんなで過ごしながら元気を取り戻す場です。

午後には「やべとも文庫」という読み聞かせの会も行っていて、幼児から中学生、地域の方どなたでも参加できます。石神井図書館さんには本の頒布会などでお世話になっており、ありがとうございます。

個人的には、発達に特性のある子どもを育てていて、図書館に行くのが難しいというジレンマがあります。絵本は大好きなので、家では毎晩読み聞かせをしていますが、図書館にも安心して行けるような環境があるとうれしいです。今後ともよろしく願いいたします。

**図書館** ちょうどひろ美術館と「I am OK の会」と一緒に、発達に課題のあるお子さん向けの絵本ガイドを作成したところです。今年は、発達に特性のあるお子さんが、図書館や美術館をどう利用できるかを一緒に考える取り組みを進めています。まだ明確な答えは出ていませんが、絵本が大好きなお子さんや、図書館に行くのが難しいと感じている保護者の声も伺っていて、どうすれば安心して利用できるか、ルールやお約束の工夫なども含めて、療育の専門家と一緒に考えているところです。またぜひお話できればと思います。よろしく願いいたします。

**利用者** よろしく願いいたします。「小さなうち」と児童発達支援の両方に所属しています。自分の子どもだけでなく、発達特性のある子どもたちと関わる中で、保護者の方から「図書館には行きづらいよね」という声をよく聞きます。ぜひ、そういったお話を伺わせていただけたらと思っています。よろしく願いいたします。

**利用者** 氷川神社です。いつも「井のいち」や「ちやが馬」などでお世話になっております。最初は南田中図書館さんにご協力いただいていたのですが、今は石神井図書館をはじめ、さまざまな図書館の方々にご協力いただき感謝しております。

私の子どもも中学 2 年生で、家族の中で一番石神井図書館を利用しており、毎日のように通って勉強しています。私自身も石神井小学校出身で、図書館は学校の一部のような存在でした。

神社でも本に特化したイベントをやってみたいと考えており、古書店や新刊書店、地域の文庫などと連携して、森の中で本に関する催しができたらと思っています。

最近は何でもスマホで調べてしまいがちですが、図書館は調べものの「宝庫」であり、子育てガイドのような取り組みも含め、知の拠点としての役割を今後も大切にしていきたいです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

**利用者** 石神井児童館です。読書活動支援事業で出張おはなし会に来ていただき、年末おたのしみ会も含め、今年度も丁寧に準備して下さり、来館者にも好評です。引き続きよろしく願いいたします。

また、リサイクル図書や貸出でもお世話になっています。児童館は遊びの場ですが、本が好きな子もいて、放課後には中学生が勉強したり、小学生がベンチでおしゃべりしたりと、居場所としての役割も感じています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

**利用者** 白百合福祉作業所です。いつもお世話になっております。先日はおまつりへのご協力ありがとうございました。

知的障害のある利用者が定期的に図書館で本を借りるなど、日頃から利用させていただいています。図書館とは、災害時の連携についても話し合っており、今年度はお互いの防災訓練に参加し合う形で取り組んでいます。地域のつながりの中で、有事の際にどう連携し、何を還元できるかを一緒に考えていけたらと思っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

**利用者** 石神井地域包括支援センターです。高齢者と地域団体をつなぐ生活支援コーディネーターとして活動しています。今回初めて参加させていただきました。

図書館が多く団体と連携されていることを知り、非常に心強く感じました。午前中には「生活お役立ち講座 体操で健康な体を作ろう」をこの会場で開催させていただき、参加者にも好評でした。開始前にテラスに出たところ、天気も良くとても気持ちよく過ごせました。あのような空間が、飲食などにも活用できるとさらに素敵だなと感じました。少し難しいかもしれませんが、今後の可能性としてご検討いただければと思います。

**図書館** 軽い食事でしたら大丈夫です。

**利用者** 情報として得られて良かったです。今後ともどうぞよろしく願いします。

**利用者** 毎月水曜日に児童室でよみかかせをしています。最近は小さなお子さんばかりで、小学生くらいの子がもっと来てくれると嬉しいなと思っています。

図書館では多くの企画をされていて、職員の方のご負担もあるかと思いますが、資料の充実も気になっています。特にヤング世代の子どもたちがどんな本を求めているのか、どんなふれあいがあるのか、職員と話せるような機会があるといいなと感じました。

また、絵本は子ども向けだけでなく、大人にも読んでほしいものがたくさんあります。大人向けの読み聞かせの会なども、年に一度でも開催していただけると、きっと喜ばれると思います。よろしく願いいたします。

**図書館** 青少年向けの事業として、最近「ロゼットを作ろう」というワークショップを開催しました。参加者は少なめでしたが、楽しく取り組んで素敵な作品ができました。

今後は、都立井草高校書道部との連携で「ライブパフォーマンス」を予定しています。お近くに青少

年世代の方がいらっしゃれば、ぜひご参加を呼びかけていただけると嬉しいです。

青少年向け資料については、文学作品や流行のものなど、要望に応える本と図書館から提案する本の両面で選書を進めています。ただ、青少年からの声を集めるのが難しい面もあり、今後工夫していきたいと思っています。

また、大人向けのおはなし会についても前向きに検討中です。最近「ねりまおはなしの会」さんが開催してくださり、とても素晴らしい内容でした。私自身もファンです。ありがとうございます。

**利用者** 練馬ふるさと紙芝居です。石神井図書館をホームグラウンドに、ふるさと文化館の副館長さんに構成を見ていただきながら、練馬の故郷のお話を史実に沿いつつ、少し面白く紙芝居として制作しています。作品は図書館に置かせていただき、「ちやが馬」や「井のいち」、敬老館などでも活動しています。

紙芝居を通じて「練馬にこんなお話があったの？」と驚かれる方も多く、ふるさと文化館の資料をもっと広めたいという思いで活動しています。作品も増えてきて、いつか紙芝居で練馬区を一周できたらという夢を持って、今後も続けていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

**図書館** ありがとうございます。子どもから大人、高齢者まで、どの世代の方にも楽しんでいただけたと思いますので、ぜひいつでもご依頼いただければ嬉しいです。

皆様たくさんのお話ありがとうございます。先ほどの事例でも報告させていただいた通り、こちらの懇談会にご出席いただいたことが縁で、連携に発展した事業もあり、図書館にとっては大変有意義な会となっております。

これからも地域とともに歩む図書館を基底に、本を通して多様で豊かな世界と出会える事業を展開してまいりたいと思います。

時間となりましたので、これで閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

引き続き、図書館の運営にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。またのご来館をお待ちしております」

お手元のアンケートにご記入いただきますよう、お願いいたします。お帰りの際に出口にて回収いたしますので、ご協力をよろしく願いいたします。